

令和6年度事業開催へのご協力に心から感謝申し上げます！

(公財) 神奈川県スキー連盟会長 片 忠夫

皆さんおはようございます！足元の悪い中ご苦労様です。

ツール／事業開催要領説明会へ久々の対面会議形式でご参集頂きましてありがとうございます。

コロナ禍が社会へもたらした影響は図り知れないものがあります。スノースポーツの宿命とも言えますが、スポーツ環境に与える影響は図り知れません。加えて地球温暖化と気候変動がそれに拍車をかけ、世界的に政治姿勢が不安定になり、騒然とした世の中になってしまいました。スノースポーツ環境に霧がかかり、見通しが極めて困難な時代へと突入してしまいました。

コロナ禍が社会にもたらした“功”の部分は「Zoom会議普及」であります。“罪”はスノースポーツがあらゆる場面で実施がやりにくくなってしまったと言えます。懸る状況下を整理して進むべき路を極めなければならない厳しい環境になってしまいました。皆さん方と執行部との英知を結集して神奈川県の進むべき「新路」を切り開きたいと考えます。今日はその良い機会ですので、多くのご意見をお聞かせください。

1.事業運営は基本的に従前に戻します。

事業は基本的に従来へ戻しますが、ツールに記載のように変えるところは変えて事業計画を作成しております。今日ご説明いたします。

教育本部では理論指導者研修会はe-ラーニングを常態化します。養成講習会、受検のためにもZoomで行い、受検生の費用軽減を図りながら進めます。研修会とは別に有資格者レベルアップ要素を入れた事業を取り入れます。

競技本部事業も再見直しを全面的に行い、地元協力体制、参加選手の父兄協力、他団体との連携を更にさらに強め、運営資金の効率化を徹底します。

2.スポンサー企業確保の確立を行います。

従来の協賛企業との共存共栄では律しきれない社会になってしまいました。マーケティング本部活動の柱とし、スノースポーツに関連しないところへのアピール活動も展開します。ホームページもスポンサー重視で再構築します。

3.インバウンドの導入元年と位置付けます。

国内マーケットが縮小してしまった今、インバウンド事業を導入するため、その導入年度と位置づけ、まずは北海道事業からスタートします。

4.この困難克服・SAKの復活へのキーワードは以下です。

- ①「有資格者の研修会出席／毎年」です。
- ②「インバウンド」です。

インバウンドはSAKでは15年も前からスノーボードで実施しています。今更新しいものではありませんが、オーストラリアに照準を合わせてプロモート可能かどうか模索してまいりましたが、時間的に間に合いませんでした。アセアン諸国へ目を向けそのPR活動を行っています。

まだまだウイルスが猛威を振るっています。皆様のご活躍とご健康、ご家族様のご多幸も合わせまして心からご祈念申し上げます。

以上